

科学研究費助成事業（学術創成研究費）研究進捗評価

課題番号	19GS0219	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	超弦理論と宇宙の創成		
研究代表者名 (所属・職)	江口 徹（京都大学・基礎物理学研究所・教授）		

【平成22年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(評価意見)		
<p>本研究は、超弦理論・宇宙論の両分野において、経験豊かな研究者と中堅・若手の研究者の連携により、宇宙の創成論の新たな展開を図ろうとするものである。</p> <p>本研究開始からこれまでの3年間に、超弦理論・宇宙論両分野において、多くの論文が生産されている。それらは頻りに引用され、世界の研究をリードしていると判断できる。</p> <p>しかし、両分野間の共同研究を計るための滞在型研究会や、分野相互の集中講義を実施するなどの努力は見られるものの、本研究の目標である、両分野の融合研究は進んでおらず、十分な研究成果が挙がっているとは思われない。目標達成のために研究計画を立てなおし、さらに努力することが求められる。</p>		

【平成24年度 検証結果】

検証結果	本研究は、超弦理論と初期宇宙論の著名な研究者2名と業績のある若手研究者の絶妙な結合により両分野を融合して大きな成果をねらったものと理解される。各計画研究では世界的レベルで傑出した研究成果が得られ、また一部に外国人との意義ある共同研究も進行したことが見られ、高く評価できる。なお、多くの論文に示された内容は、独自性が強く、それぞれの分野で高い評価が得られたと判断される。
B	<p>しかし、理論研究において各自の独立性があるため、計画立案時に萌芽的成果が出ていなければ無理に融合しても研究成果が出ない面もあり、発表論文で見る限り共著論文の報告もないため、各計画研究間の融合に関しては、成功したとはいえない。</p> <p>結論として、理論研究の顕著な進展に関しては、高い評価を与えられるものの、総合評価としては、当初目標は達成されなかった。</p>